

ネステ オランダで再生可能燃料増産

ネステ

## 蘭で再生可能燃料増産



再生可能燃料を増産する  
蘭ロッテルダム製油所

上26  
期めど年  
**SAF**など年**270**万トンに

ネステはこのほど、かねてから検討していた蘭ロッテルダム製油所での再生可能燃料増産投資を最終決定したと発表した。2026年上期の完成を目指し、SAF（持続可能な航空燃料）をはじめとする再生可能燃料・化学原料の生産能力を年270万トンに倍増させる（うちSAFは120万トン）。投資額は19億円（約2700億円）。同社は、シンガポールと米国でも同様の投資を実施・計画しており、26年時点でグループの生産能力は年680万トンに高まる。

ロッテルダム工場の現状能力は年140万トン。SAFのほか、バイオディーゼルやバイオナフサなどの生産も手がけ、同社によると欧州最大の再生可能燃料工場。ネステはシンガポール

ネステの再生可能燃料・化学品原料増産計画

製油所立地	投資額	増強幅	増強後能力	完成
オランダ	19億計	130万トン	270万トン	2026上期
シンガポール	15億計	100万トン	200万トン	2023年春
米国(合併)	9億計	210万トン	210万トン	2023年末

※フィンランドのボルヴォー製油所でも生産実績あり  
※米国計画は2段階で実施。投資額はネステ負担分

の製油所でも、再生可能燃料の増産投資を実施中で稼働は23年春を予定している。こちらも生産能力を年200万トンに倍増する。今年3月には、米国の石油精製大手・マラソン

石油と折半出資会社を設立し、同製品を事業化すると発表。マラソン石油がカリフォルニア州で運営する製油所の精製装置を改造し、22年末までに年100万トン体制で生産を開始する。環境影響評価など関連手続きが完了次第、最終決定を下す。ネステ側の投資額は9億円。23年末までに現地で同210万トン体制を構築する計画。

ネステの再生可能燃料生産能力は現状、年330万トン。食物残渣に含まれる動植物油脂やパーム油およびその残渣、ジャトロファ油、大豆油などを水素化処理して製造する。

## 廃食油由来再生ディーゼル 日本初、旅客バス導入

### 廃食油由来再生ディーゼル

## 日本初、旅客バス導入

伊藤 忠  
工藤 奈緒

既存の車両や給油関連施設をそのまま利用できる。欧米で流通実績を持ち、今後「次世代リニューアブル燃料」として、陸上輸送分野での利用拡大が期待されている。

NESTE社は、世界最大級のリニューアブル燃料メーカー。食品競争のない廃食油や動物油を原料に、RDや持続可能な石油代替航空燃料（SAF）などを製造する。伊藤忠商事とは協働しており、2020年10月にはSAFの日本国内向け供給を実現している。

伊藤忠エネクスはこのほど、西武バス（埼玉県所沢市）および世界最大級のリニューアブル燃料メーカーであるNeste OYJ社（フィンランド、NESTE社）と

グループと共同で、リニューアブルディーゼル（RD）の旅客バスでの使用開始を発表した。廃食油などを原料としたRDで走る、日本初の旅客バスとなる。14日から西武バス所沢営業所で運行を開始する。

採用するNESTE社のRDは、食品競争のない廃食油や動物油を原料に製造している。ライフサイクルアセスメント（LCA）ベースでのGHG排出量で、石油由来軽油と比べ約90%の削減を実現している。RDは主に輸送用トラック・バスでの使用が期待され、

理装置・産業廃液処理装置の販売・据付工事など、関連事業を展開している。

今回の取り組みは、伊藤忠商事がNESTE社とRDの日本国内向け輸入契約を締結し、伊藤忠エネクスが国内のRD輸送および給油にかかわるサプライチェーンの構築を行ったことで実現した。営業運行する旅客自動車での、温室効果ガス（GHG）排出削減が可能なRD燃料の使用は、国内初となる。

アケアをグループ化したことで、十全は今後、各種化学工業製品の販路を拡大する。将来的には業務の統合も視野に入れる。始動した新中期経営計画では、売上高目標についてアケアを含め180億円規模を目指す考え。

アケアをグループ化したことで、十全は今後、各種化学工業製品の販路を拡大する。将来的には業務の統合も視野に入れる。始動した新中期経営計画では、売上高目標についてアケアを含め180億円規模を目指す考え。

## 2022年3月カーボンブラック品種別実績

〔2022年3月カーボンブラック品種別実績〕

品 種	生産		出荷		在庫量	率 %	
	3月	累計	3月	累計			
ゴム用ファーンネス	ISAF	8,110	26,340	8,585	23,965	22,290	260
	HAF	24,091	64,128	22,493	63,312	22,478	100
	FEF	8,108	24,796	8,774	24,510	8,821	101
	GPF	3,258	10,646	3,737	10,307	3,574	96
	SRF	3,173	8,541	2,984	8,290	3,790	127
	F T	695	2,511	827	2,567	1,636	198
計	47,435	136,962	47,400	132,951	62,589	132	
(前年比)%	105.1	104.2	98.2	99.6	112.6		
非ゴム用その他	2,455	7,528	2,721	8,062	9,088	334	
(前年比)%	113.8	106.3	91.2	96.7	109.9		
合計	49,890	144,490	50,121	141,013	71,677	143	
(前年比)%	105.5	104.3	97.8	99.4	112.2		

3月生産は前年同月比  
3月の生産は前年同月比  
カーボンブラック協会  
がまとめたカーボンブラ  
ック需給実績によると、

3月生産5.5%増  
カーボンブラック  
5・5%増の4万989  
0ト、出荷は2.2%減の  
5万121トとなった。  
タイヤ向けが主体のゴ  
ム用ファーンネスの生産は  
5・1%増、出荷は1・  
8%減少。非ゴム用その  
他は生産が13  
・8%増、出  
荷は8・8%  
減少した。  
また輸出は  
10・2%減の  
5525ト、  
輸入は3・1  
%減の1万5  
294トだっ  
た。個別輸入  
量は、数量の  
多い順に韓国  
6・9%増、  
タイ5・1%  
減、中国8・  
2%減、イン  
ド70・7%  
増、米国19・  
0%増だっ  
た。

た。0%増だっ  
た。

## 価格情報：大王製紙、東洋インキ

### 8月22日分から 用紙価格を改定

#### 大王製紙

大王製紙㈱（本社・東京都千代田区、若林頼房社長）は8月22日出荷分から、印刷用紙ならびに情報用紙の価格改定をすることを決めた。改定幅は印刷用紙・情報用紙ともに、現行価格から15%以上となる。

同社は印刷・情報用紙分野について2021年11月に価格改定をしている。しかし、その後もウクライナ情勢をはじめとした世界情勢の変化にともなう原燃料価格・物流経費の上昇、急激な円安進行により、製造コストが想定を上回る水準で推

移しているという背景から、再び価格改定する。

### グラビアインキ

#### 7月から値上げ

#### 東洋インキ

東洋インキ㈱（本社・東京都中央区、柳正人社長）は7月1日出荷分から、グラビア・フレキソインキおよびラミネート接着剤について価格改定することを決めた。

同社では2021年12月に価格改定を表明・実施しているが、その後も想定を大幅に上回る形で石化原料の需給バランスが逼迫を続け、また世界的規模でエネルギー資源の高騰が加速しインフレ圧力が高まることで、調達から製造プロセスにい

たるさまざまな工程のコストが圧迫。これにより、グラビア・フレキソインキおよびラミネート接着剤の主原料である顔料、樹脂、溶剤などの価格はさらなる上昇を続けている。

価格改定幅は次のとおり。

【グラビア・フレキソインキ】

▽白インキ、ワニス、

メジウム関係 70～80円

／キログラム

▽色インキ 90～100円

／キログラム

▽硬化剤、添加剤 1

50～200円／キログラム

【ラミネート接着剤】

▽主剤 80円／キログラム

▽硬化剤 150～200円

／キログラム

## 価格修正ダイジェスト

とくに表記のないものは1キログラム当たり

□エポキシ樹脂など・三菱ケミカルグループが7月1日からビスフェノールA型/F型エポキシ樹脂を68円、これら以外の特殊エポキシ樹脂を23〜210円、エポキシ樹脂硬化剤類を38〜600円値上げ。

・DICが7月7日からエポキシ樹脂のビスフェノールA型を90円以上、ビスフェノールF型を130円以上、ノボラック型固形、溶液を110〜150円以上、難燃型を100円以上、難燃剤は150円以上、ノボラック系硬化剤は130円以上、アミン系硬化剤は40円以上、その他対象製品は50円以上値上げ。

□フェノール樹脂・群衆化学工業が7月1日から固形製品を37円、液状製品を19〜30円値上げ。副原料価格上昇分は別途製品ごとに加算。

□粘着剤など・トーヨーケムが7月15日から粘着剤および樹脂製品を現行比15%以上値上げ。